



ほけんだより

2020年 10月

10月です。吹く風も涼しく、秋を感じる季節になりました。しかし、急に気温が変化したことで、体調を整えるために体の機能は大忙し。実は、気が付かないうちに疲れがたまっています。週末は無理をせず、ゆっくり体を休める時間を作ってくださいね。

千代田区子ども支援課 看護師 大江裕子



☆ 子どもの視力 ☆

生まれたての赤ちゃんの視力は、目で見たものの映像を脳で理解する仕組みがまだ育っていないため、対象物がはっきり見えていません。

生後の0.01程度しかない視力は、急速に発達して1歳になるころには0.1程度まで育ち、3～4歳をむかえる頃には視力の成長はゆっくりとなり、4～5歳で1.0程度に、10歳になるころにほぼ完成するといわれています。

しかし、乳幼児期の視力の急速な発達段階において、何らかの理由により網膜にはっきりと像が写らず、刺激が加わらなかった場合、視力が育ちません。そのあとから視力が育ち始めても、それまでの成長分を取り戻せることは少なく、結果として弱視になってしまいます。

弱視の原因となる「斜視」について

左右の眼は常に連動して動いています。ものを見るときは両眼の視線はその対象物に対して、まっすぐに向かいます。これがうまくできず、左右の視線がそろわないことを「斜視」といいます。

斜視では、片方の目でものを見てしまうので、使われないもう片方の視力が育たず、弱視になりやすいです。

斜視には、片方の眼球が内側に向いてしまう「内斜視」と、外側に向いてしまう「外斜視」があります。子どもは内斜視が比較的多くみられます。

斜視の主な原因として、両眼の視線を合わせようとする脳の機能がうまく働かない場合と眼球を動かす筋肉の動きに問題がある場合があります。内斜視では、遠視が強いことが原因になる場合もあります。



こんな時は要注意

- ・ものを見るとき、目を細める、顔をちかづける、首を傾げる。
- ・両目もしくは片目が寄っている、別の方向を向いている。
- ・反応がにぶい、物事に集中できない、疲れやすい。

...など

斜視は子どもの約3%にみられます。視力の発達が著しい時期に治療せずに放置していると、斜視の子どもの約半数に何らかの視力障害が残るといわれています。

お子さまの様子をみて、少しでも「あれ？」と思うことがあれば、早めに医療機関を受診しましょう！

